



鳥獣害防護柵の設置による農地の保全

中間農業地域



キーワード

地域資源の
保全管理

たしろすいりくみあい

田代水利組合（福岡県うきは市）

- 本地域は、中山間に位置する地域で、農村地域の過疎化による農業従事者の高齢化、過疎化等の進行に伴い集落機能の低下がみられ、共同活動の困難化により担い手農家の負担増が懸念される。
- 農地はイノシシにより食害や掘り起こし等の被害が多数発生し、耕作を困難としている状況であったが、電気柵の設置により防止した。

【地区概要】

認定農用地面積4ha

（田3ha、畑1ha）

・資源量 水路1.0km
農道0.3km

・主な構成員

農業者、自治会、子供会等

・交付金 約0.2百万円

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 受益農家がのり網やトタン板等を用い、自家施工で侵入防止柵を整備していたが、経年劣化によりイノシシの被害が増加した。



電気柵の設置

取組内容



- 地域で一体的に電気柵を設置し、草刈りなどの維持管理を共同で取り組んでいる。
- 草刈り、水路の泥上げ等地域での共同作業の実施。



農道の管理

取組の効果

- 電気柵を一体的に設置することで、設備費用の削減が図れた。
- 設置や施設管理に係る作業を共同で行うことで負担の軽減を図った。



電気柵の管理



農業用施設の知識や補修技術

平地農業地域



キーワード

農業用施設
の機能増進

たかえなのはな 高樋菜の花ロード（福岡県大刀洗町）

- 本地域は、福岡県中南部の筑後平野に位置し、筑後川水系等による水資源に恵まれ、良質な米・麦・大豆・野菜等多様な農産物の生産地である。今後も農業振興を図るためには、地域資源の農道・用排水路を適切に保全管理するとともに良好な地域環境を維持・醸成していくことが求められる。
- 平成19年度より農地・水・環境保全向上対策による取組を開始し、平成26年度に多面的機能支払交付金に移行し17年間継続して活動を行っている。
- 本組織では点検活動に基づき農道路面の整地、路肩の補強（木柵）、水路の泥上げ、水路法面の初期補修（木柵）を活動組織の構成員による直営施工により実施している。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積114ha
（田91ha、畑23ha）
- ・資源量 水路8.7km
農道13.6km
- ・主な構成員
農業者、自治会、
老人クラブ、福祉協力員
- ・交付金 約7百万円

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 近年、局所的豪雨発生が増加し、農道・水路・農地の法面が破損し通行障害や、農地・水路等への土砂流入による災害発生が頻発している。
- 基盤整備対象外の農地・水路は元より、昭和期の整備農地・水路等の劣化が見られ災害発生のおそれが高まっている。
- 地域資源の保全、地域環境維持の観点より、直営施工が可能なものは協議の上農家及び非農家が協力して実施することとしている。

取組内容



- 農道・農地法面の補修・補強（木柵）の直営施工



木柵の直営施工

- 農用取水口浚渫、農道整備の直営施工（参加者：農業者5名、非農業者3名）



取水口浚渫



農道整備

取組の効果

- 農業者・非農業者等の地域の人的資源の活用により、農業者・非農業者ともに農業用施設を大切にする意識・補修技術が向上した。
- 農業者・非農業者等が共同で活動することで、活動開始前より年配方と子供たちの世代をこえた、地域の交流が活発になった。



地域の交流



水路清掃



草刈り状況



おいでかんきょうほぜんかい かまし
大井手環境保全会（福岡県嘉麻市）

- 本地域は嘉麻市の南部に位置し、筑後地方へと続く八丁峠の入り口であり、南に豊かな森林を擁する地域。
- 北東から南西へ国道が縦断し昭和62年からほ場整備を行う等、恵まれた環境ではあるものの、過疎地域であり他産業への兼業化や高齢化率も高く後継者不足などの課題も多い地域。
- 女性役員の起用により、少しずつ、若者や女性の参加者が増えている。

【地区概要】※R4年度時点
認定農用地面積：27ha
（田：24ha、畑：3ha）
資源量：水路6.7km
農道1.3km
主な構成員：農業者、農業者以外
交付金：約2百万円

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況 や課題

- 昔は家族や地域等共同で田を耕作し、水路管理を行ってききましたが、今や地権者5～10名に対しての、耕作者が1人という状況で平均年齢70歳代の耕作者達への負担が限界の状況です。
- 加えて水路の現状や井堰の状況を把握している若手がない現状も課題の一つです。

取組内容

- ひまわり・コスモスを農業者と、非農業者の役員を中心に休耕地や畦畔に定植し、この地域で協働して保全活動している素晴らしさ、苦労なども、知ってもらうきっかけになっています。
- 地域での円滑なコミュニケーションを図るには女性役員が必須との考えから、30代女性（農業者以外）を含めることで、発起から総会まで準備等の事務作業を含め、企画提案や審議等がスムーズに進みました。



ひまわりの定植



取組の効果



水路の泥上げ

- 取組に女性役員の視点を加えたことで、景観形成活動等による地域環境がより良いものとなっている。また、子どもの安全面への配慮や活動参加者との積極的なコミュニケーションを行っているため、地域内の交流の活性化や活動参加者、若手就農者が増加するといった効果に繋がっている。
- ・若手新規就農者の役員や構成員
：年1名程度増
- ・活動参加者数：年4名程度増
(活動参加者は約50名程度まで増加(R4))



防災・減災を意識した田んぼダムの取組

平地農業地域



キーワード

せいでんかみみどりのかい ちくごし
井田上緑の会（福岡県筑後市）

- 本地域の特徴として、地域の水資源を活かし、良質な米や麦、大豆等を生産しており、本組織では、平成19年度以降、農地・水・環境保全向上対策交付金を活用し、地域共同により農地・農業用水等の資源の保全管理と農村環境保全向上に取り組んでいる。
- 本組織は、県からのモデル田の選定依頼を契機に市の流域治水担当部署（水路課）の協力のもと、令和4年度から田んぼダムの取組を実施している。市より提供された排水流出量調整板を利用し、雨水を一時的に田んぼに貯めることで、水路へ流れる水量のピークを抑えることができた。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積27ha
(田25ha、畑2ha)
- ・資源量 水路8.4km、農道6.4km
- ・主な構成員
農事組合法人井田上、井田上農事組合、井田上行政区、老人会、子供会 等
- ・交付金 約112百万円

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況

- この地域は、特に防災・減災に関しての対策がなく、大雨時に用水路が一部氾濫しそうになり、災害が起こりそうで心配だった。



田んぼダム
設置あり

田んぼダム
設置なし

R5.7.3 大雨後の写真

取組内容

- ブロックローテーションにより、令和4年度に、水稻作付けしたところは大豆に、大豆を作付けしたところは水稻へ変わるため、令和5年度は、設置場所を全て入れ替えて取り組んだ。

R4 : (田) 約11ha

R5 : (田) 約21ha

- 排水流出量調整板の設置枚数

R4 : 60 枚

R5 : 99 枚



取組の効果

- 田んぼに堰板を設置をし、雨水を貯めることで、農作物に影響を及ぼすと聞き、多少懸念をしていたが、思ったほど影響は無く、今回「田んぼダム」に取り組み、ある程度雨水等をためることで水害の予防になっている。



堰板の設置状況



ふたまたくしぜんかんきょうほぜんかい

たけおし

二俣区自然環境保全会（佐賀県武雄市）

- 二俣区自然環境保全会は、従来からの農地・水・環境保全向上対策事業に取り組んでおり、平成26年より多面的機能支払に改正されてからも活動を続けている。
- 本地域（組織）の特徴として、平坦部に位置し大雨時には浸水被害が発生する地区であるが、多面的機能支払を活用して見回り活動なども実施している。
- 高齢化が進み活動参加者が減少しつつあるが、水質保全活動（マイエンザのこと）によって、地域の水質浄化のみならず、農家・非農家の交流など、地域内のコミュニティ強化を意識しながら参加者の確保に努めている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 25.9ha
（田25.7ha、畑0.2ha）
- ・資源量 水路2.6km
農道1.3km
- ・主な構成員 自治会、女性会、
子供会
- ・交付金 約2百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化や担い手不足により、農業用施設等の維持管理が難しくなることを懸念していた。
- 従来から大雨による浸水被害が発生している地区である。
- 農地または農業用排水施設の保全管理は、農業者に特化して実施していた。



水路の草刈り



農道の草刈り

取組内容



- 農地及び水路畦畔、法面の草刈り（年2回）



- 水路、パイプラインの機能診断
軽微な補修（年1回）



- 施設（水路）の長寿命化（8月）



- 農家をはじめ自治会や婦人部と連携して、マイエンザ（微生物活性化資材）作りを行い、地域交流の場となっている。



マイエンザ作り



マイエンザ：生活排水浄化
（各家庭排水口に吹き付け）

取組の効果

- 以前は、農家のみで草刈り・泥上げすることは、あたりまえとの認識で管理してきたが、非農家が参加することによって、地域で農地を守っていく認識が以前より高まった。
- マイエンザ作りによって、農家・非農家との交流をはじめ、地域の水質浄化にも貢献しているといった、心の満足感も得られ、今後も継続して農地を守りながら、地域交流も大切にしていきたい。
- R4年度 活動参加者延べ人数
農家 121人
非農家 180人



ゴミ拾い



自然災害防災・減災・復旧

うちとがわかんきょうほぜんかつどうそしき

おぎし

内砥川環境保全活動組織（佐賀県小城市）

- 本地域は、多久市を起点に小城市を經由し、江北町まで伸びる羽佐間水道の途中にあり、江北町との境である。この地域では、米、麦、大豆のほか、みかん、ナスなどの栽培をされており、生産組合のほか、灌水組合などがある。
- 本地域は、県内でも有数の水害常習地域であり、本組織設立以前より水害には悩まされている地域である。平成19年より農地・水・環境保全向上対策に取組み、現在は本交付金による取組を実施している。
- この地域のため池は、農業に大切な資源であるものの大雨時には水害地域を守るための防災・減災に努める施設である。

平地農業地域



【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 33ha
(田13ha、畑20ha)
- ・資源量 水路6.4km、農道20.5km
ため池3箇所
- ・主な構成員 農業者・非農業者等
- ・交付金 約2百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域のため池は重要な水資源であり、防災・減災施設としても位置付けている。そのため、地域住民全員でため池の草刈りや周辺の整備を行っていた。
- ため池の維持管理として、1～2年に1回は池干し等も行っている。しかし、周辺の山は標高が低く、急傾斜であるため大雨時の水位調整が非常に難しい地域である。
- ため池操作員の後継者がいないため、高齢者がため池の水位調整などの管理を行っていた。
- バス釣りの名所となっているため池において釣り人に、ごみの持ち帰りを声掛けしていたが、ゴミの放置が時々発生していた。

取組内容

- 草刈りや泥上げ等による施設の維持管理を実施
- 組織の下流地域は、水害常習地帯であり、毎年のように水田や宅地が浸水被害を受けている。そのため、防災・減災の観点から 大雨予報時には、ため池の落水を事前に実施。
- 大雨後は構成員で見回りを行っている。
- 地域住民全員で、ゴミ拾い等も行っている。



意見交換会



ため池堤防の草刈り

取組の効果

- 日頃の維持管理の徹底により、住民のため池に対する意識は高く保られている。
- ため池の事前落水を実施し、周辺家屋や農地の湛水被害を軽減している。また、活動内容に対する意見交換の機会が増えたことで、地域全体の事前落水に対する意識が高まり、地域一体の水害対策が可能となった。
- 大雨後は見回りを実施し、通水に支障が生じる土砂などの撤去作業が、すぐ実施できるようになった。
- 地域全体で防災意識が高まったことにより、後継者の確保ができ、後継者育成のため、ため池の管理方法を説明しながら、水位調整を行っている。



水路土砂撤去



ため池の事前落水

キーワード

・自然災害の防災
・減災・復旧



くりちくのうそんかんきょうをまもるかい

からつし

久里地区の農村環境を守る会（佐賀県唐津市）

- 本地域は、唐津市の中央に位置し、平成19年より農地・水・環境保全向上対策に取組、現在は本交付金による取組を実施している。
- 本組織の特徴として、小学校の課外活動と連携した農業体験(田植・稲刈・玉葱収穫)や「緑と花を育てる会」と連携した景観形成・生活環境保全にも取り組んでいる。農業体験については、構成員が学校側と日程調整を行い、天候や稲の生育状況に合わせて適切な時期に農業体験ができるよう工夫している。
- ホタルの保全活動を通じて、環境保全・生態系保全活動に取り組んでいる。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積109ha
(田100ha、畑8.5ha)
- ・資源量 水路27.4km
農道13.2km
- ・主な構成員 自治会、老人会 等
- ・交付金 約9.7百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、米の作付けが中心である。
- 半世紀前の圃場整備事業で整備した水路、パイプライン、水門等の水利施設が老朽劣化しているほか、農道の未舗装区間がまだ多く整備が必要。
- 大雨時の内水氾濫による圃場への越水等も多く、災害関連の対策が必要。



水路の補修



圃場への越水状況

取組内容

- 草刈り、泥上げ
- 清掃活動、植栽活動
- 未舗装農道の整備や老朽化した水利施設の更新を行っている。
- 組織では久里小学校の小学生を対象とした農業体験(田植・稲刈・玉葱収穫)を行っている。
- また、「緑と花を育てる会」による小学生と連携した花苗の植栽を実施している。
- 地域環境保全(ホタルの保全活動)の一環として、水路の清掃活動やカワニナの生息状況の把握と餌設置を行っている。



花苗の説明を受ける小学生



ホタルの保全活動

取組の効果

- 小学生から、農業や地域の活動に触れてもらうことで農業に関心を持ってもらい、次世代を担う子供たちの農業と地域資源を大切にすることを育むことができた。
- 各種団体による保全活動を行うことにより地域資源を守っていかなければならないという意識が多くの構成員に広まり、年間活動延べ人数の増加につながった。
(H30:1566人→R4:1678人)



農道舗装



田植え体験



稲刈り体験



地域防災(田んぼダム)の取り組みについて

平地農業地域



キーワード

地域防災(田んぼダム)の取組

組織の広域化・体制強化

きたしげやすこうきのうそんかんきょうほぜんかい

ちょう

北茂安広域農村環境保全会（佐賀県みやき町）

- 北茂安広域農村環境保全会は、令和元年に10地区の広域組織（現在は12組織）となり、単独組織であった、西尾農村環境保全会もそれを契機に広域組織の下部組織となった。
- 西尾区（子組織）の特徴として、農用地面積が町内の中でも3番目に大きく、内水氾濫治水対策として、令和4年度より田んぼダムに取り組んでいる。（田んぼダム取り組み地区では最大面積）
- 県道22号線（北茂安三田川線）を挟んだ南北に農用地があり、北側農地でも田んぼダムに取り組むことによって、住宅浸水及び道路冠水の軽減にも繋がっている。
- また、非農家、子どもクラブ等も構成員となっており、地域一体となって農地保全活動に努めている。

【地区概要】※R4年度時点（西尾区）

- ・認定農用地面積73ha（田65ha・畑8ha）
- ・資源量 水路15.5km 農道11.7km
- ・主な構成員 自治会、老人クラブ 婦人会、子どもクラブ 消防団等
- ・交付金 約3百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

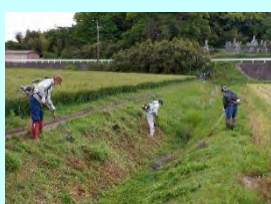
資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、平成19年以前については、土地改良区が行う燃料支給や夫役等で維持管理活動を行ってきた。
- また、西尾区より下流部の浸水被害が多いため、治水対策を進めるうえでも重要な地域となっている。
- 高齢化が進んでおり、今後担い手不足が懸念される。



浸水被害(R3)



農地維持活動

取組内容



- 内水氾濫対策として田んぼダムをR4年度から取り組み R4:40ha R5:46ha



- 非農家、子どもクラブを含めた植栽活動、畑の有効活用



- 地域内の大規模農家による担い手の育成



田んぼダム



地域活動

取組の効果

- 田んぼダムの取組により、下流地域への大雨による浸水被害を軽減することができた。また、同広域内の5地域も取り組んでおり、浸水被害の軽減に繋がっている。
- 農家が中心となり、非農家や子供クラブと一緒に花苗植樹及びさつまいもの定植収穫イベント等の世代間交流を行うことにより、参加人数を増やすことが出来た。
- 地域内の大規模農家による、新規就農者や担い手への農地のあっせん、営農のサポートによる次世代の確保。



清掃活動



植栽活動

みなみしまばらしのうちはぜんこういききょうていうんえいいんかい みなみしまばらし

南島原市農地保全広域協定運営委員会（長崎県南島原市）

- 長崎県島原半島の南東部に位置し、温暖な気候を利用した県内有数の農業地帯である。
- 平成30年度から広域化の準備・検討を開始し、令和元年度に市内の9組織で広域組織を設立。令和2年度に2組織（うち1組織は新規）、令和3年度に2組織（うち1組織は新規）、令和4年度に4組織が加入し、規模拡大。
- 組織の規模拡大等により、活動組織の構成員が農業者よりも非農業者が多くなるとともに、参加団体数が64団体になり、多くの人材が確保され、活動内容の多様化の機運が高まっている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 734ha
（田203ha、畑531ha）
- ・資源量 水路196km
農道107km
ため池4箇所
- ・主な構成員 自治会、女性会、PTA、土地改良区
- ・交付金 約39百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 集落の人口減少や高齢化により、組織役員の担い手やリーダー不在が顕在化。
- 更に、人材不足により組織としての活動が休止に追い込まれるおそれ。また、役員の交代が進まず、活動がマンネリ化。



農道の草刈り

取組内容

- 地域資源の適切な保全管理と災害への対応力の強化
- 多様な主体が活躍する場の創設
- 災害に対する強靱性、対応力の強化
- 活動組織に参画する主体の増加



自治会参加による景観形成活動

取組の効果

- 広域化とその後の吸収合併が進むとともに、非農業者が参加しやすい活動の継続的な実施により、地域の非農業者（団体を含む）と良好な関係を築たことにより、農業者（771名）、非農業者（1,159名）、参画団体数が64団体となる多様な人材が集う組織へ成長。
- 異常気象後の早急な対応が可能になり、水路目地補修講習会等を定期的に受講することで、地域における災害に対する意識や対応力が高まっている。



水路目地補修講習会



多面的機能支払交付金を活用した水辺の保全

中間農業地域



キーワード

生態系保全、環境保全
型農業に関する取組

組織の広域化
・体制強化

いきのうちほぜんこういききょうていうんえいいいんかい いきし
壱岐農地保全広域協定運営委員会（長崎県壱岐市）

- 壱岐市は玄界灘に浮かぶ平坦な島で、温暖な気候を利用した農業が盛んな地域である。
- 壱岐市では、平成19年に65組織で本交付金への取り組みを開始。新組織の設立や取組面積の拡大に伴い、一島（市）一組織として、平成29年に広域組織運営委員会を設立。
- 島内の水辺（水路、ため池等）への外来種の侵入により、在来種への影響が懸念されるため、外来種の駆除や水辺の保全を実施。

【地区概要】

- ・認定農用地面積 1,665ha
（田1,414ha、畑252ha）
- ・資源量 水路372km
農道395km
ため池228箇所
- ・主な構成員 自治会、女性会、子供会、農事組合法人
- ・交付金 約113百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 壱岐島は、地形的な制約から大河川がなく、水源をため池に依存する地域が多い。
- 一部の愛好家により、ため池へ放流された外来種の魚が増加。在来種への影響が懸念。
- 釣り人により放置された釣り具が、揚水ポンプの故障の原因になっている。



網を使った外来種の駆除の様子

取組内容



- 島内のため池の水質を保全し、水資源の持続可能な管理、利用



- 水質保全活動による、ゴミ流出により海洋汚染を防ぐ



- ため池における外来魚の駆除



ホタル生息地の清掃活動

取組の効果

- 人口減少と高齢化が進行する中、ため池等の清掃活動を定期的にかつ継続的に行っており、地域への啓発効果が現れている。
- 組織の広域化を契機に情報の共有化が進み、ため池の清掃活動を実施する機会が増え、非農業者がため池清掃活動に参加する機会が増えた。



捕獲した特定外来生物「ブルーギルなど」